

●NIE(Newspaper In Education)
新聞を教育活動の中に取り入れる
ことをいいます。

本町では「読書教育」と「NIE」を「学びの土台」と位置付け、全小中学校で取り組んでいます。
今回は、なぜ「NIE」の取り組みを進めるのか、そしてそれを受けて、各校ではどのような取り組みを進めているのか紹介します。

1 なぜ、NIEの取り組みを進めるのか

■教科書の文章を正しく理解できない？

2016年から2017年にかけて国立情報学研究所が、小学校6年生から社会人を対象に「基礎的読解力を図るテスト（リーディングスキルテスト）」を実施しました。教科書や新聞などから抜き出した200字未満の文章を正しく理解できるかを調査したところ、中学生のうち約15%は、意味理解の最初の段階である、文の構造の把握ができないまま中学校を卒業していることが明らかになりました。

■読解力が低いとAIに職を奪われる？

国立情報学研究所は、この状況では、日常の学習や仕事は元より、将来、自動車の普通免許など、資格の筆記試験に大きな困難を伴うことが予想されるとしており、ますます発達するAI（人工知能）に「職を奪われる」と指摘しています。

■「読解力」をつけるために

2020年度から全国の学校で実施される「新学習指導要領」の中では「主体的・対話的で深い学び」の実現が掲げられています。その実現に向けて「読書」をはじめとした「読む」活動の重要性が、ますます高まっています。

これからの「変化が激しく予測困難な時代」を「生き抜く」本町の子どもたちの読解力を育むためには、日常から文字に親しむこと、そして新聞記事などの非連続型テキストを読むことが大切とされています。



読書とNIEが、読解力向上の相互作用を生みます。

このような状況から、昨年、本町では「全国紙」を全小中学校に配置し、さらに本年度から、小学校に「小学生新聞」を、中学校には「中高生新聞」を配置し、NIEの取り組みを一層進めています。

ご家庭でも、新聞に触れる機会を積極的につくっていただくよう、お願いします。

2 各校の取り組みから

★各校では、児童生徒の実態に合わせて、NIEに関するさまざまな取り組みを進めています。



二社の記事の読み比べをします。複数記事の読み比べは主権者意識の醸成につながります。（野付小）



気になった記事をスクラップにし、他の児童は「なるほど」など思った記事にシールを貼ります。（上春別小）



使われていない空き教室の一角に新聞コーナーを設置し、子どもたちが気になる記事を掲示します。（西春別小）



廊下両面をNIEコーナーにし、生徒が興味関心をひくように、多くの記事を掲示します。（上西春別中）



生徒玄関を入ったところに新聞台を設置し、子どもたちの目に入りやすい環境を作っています。気になった記事には、コメントを書き、付せんを貼ります。（野付中）



教科の中で、家庭学習として気になる記事のスクラップと感想を書く取り組みをしています。全員分が廊下に掲示されています。（中央中）

町民の皆さんに知ってほしい4月と5月の主な学校行事

- | | | |
|----------------|---|------------|
| 4月8日(月) | 午前：各小学校入学式 | 午後：各中学校入学式 |
| 4月10日(水)11日(木) | 町内全校標準学力調査（小学校2年生から6年生、中学校1年生から3年生※前年度学習範囲） | |
| 4月18日(木) | 全国学力学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生） | |

★本町全8学校区で「地域とともにある学校づくり」を目指す別海型コミュニティ・スクールを推進していることから、今後は、各校の行事や参観日について、地域の皆さんに來校していただくことが可能なものや、知ってほしいものをご紹介します。